

1884年

▶ 大阪商船の誕生

当社の創業は1884(明治17)年、瀬戸内の船主55名が93隻の船を現物出資して設立した大阪商船にまでさかのぼります。



大阪商船本社(大阪府北区富島町)

1973~1985年

▶ 変動相場制導入・プラザ合意による急激な円高・日本籍船の競争力低下

1973年に米ドル為替は1ドル=360円の固定相場制から変動相場制に移りました。さらに1985年の「プラザ合意」により1ドル=240円前後だった円為替相場は、1年後には120円台にまで上昇しました。円高により日本籍船の競争力が急激に低下したことから、当社では日本人船員と外国人船員の混乗を進め、日本人船員の大幅な削減を行うこととなりました。

1945~1970年

▶ 第2次世界大戦による日本商船隊の壊滅と復興

日本の民間商船隊も軍事輸送に徴用され、日本全体で約2,400隻の船腹と3万人以上の乗組員が失われました。その後、日本が敗戦から立ち直り、鉄鉱石や石油などの資源を輸入し自動車や電化製品などを輸出する貿易立国として復興する中で、当社も海上輸送を通じて日本経済の発展に寄り添いながら、事業の多角化・専門化を進め、多様な船舶を持つ総合海運会社へと発展してきました。

挑戦と変革の歴史

商船三井は130余年の歴史の中で、時代の要請と顧客のニーズを先取りし、時に様々な困難を克服しながら、世界最大級の総合海運企業へと成長してきました。それを支えてきたものは「挑戦と変革」の精神です。これからもこの精神を持ち続け、次の130年へ前進していきます。

1995年

▶ コンテナ船サービスで初のアライアンス(戦略的国際提携)開始

コンテナ船事業では、船舶の建造・航路の運営などに膨大な投資を要します。当社は航路網を補完し合える、米、欧、香港の海運会社とともに、世界的規模で提携するアライアンスを業界で初めて開始し、コンテナ船のスペースをシェアするとともに、寄港地や寄港頻度の拡充を通じ、顧客サービスの充実を図りました。

2004年
ダイビルを連結子会社化

2010年
FPSO事業へ参画



2013年
日本船社初のFSRU事業への参画



2012年
世界初のハイブリッド自動車船「EMERALD ACE」竣工

1999年
大阪商船三井船舶とナビックスラインが合併し、商船三井発足

1996年
ケミカルタンカー船社東京マリンを連結子会社化

1989年
ジャパンラインと山下新日本汽船が合併し、ナビックスライン発足

2000年代前半

▶ 資源・エネルギー輸送分野への積極投資

資源・エネルギー輸送を得意としていたナビックスラインとの合併(1999年)を経て、中国の経済発展と資源需要増を見越してこの分野に積極投資を行い、鉄鉱石、石炭などを輸送するドライバルク船、原油タンカーやLNG船の整備を進めました。



2007年
世界最大級鉄鉱石船「BRASIL MARU」竣工

1984年

▶ LNG船「泉州丸」就航

電力会社を中心に環境負荷の低い発電エネルギーとしてLNG(液化天然ガス)の輸入需要が増加しました。LNGはマイナス162度での輸送が必要となる、大変輸送難易度の高い貨物です。当社は1983年にLNG輸送分野に進出し、現在では発注残を含めると関与隻数を世界最大規模の92隻(2016年3月末時点)にまで拡大しました。



「あめりか丸」(700個型)



1968年
フルコンテナ船サービス開始

1964年
大阪商船と三井船舶が合併し、大阪商船三井船舶発足



1961年
機関室を操舵室から集中制御する世界初の全自動化船「金華山丸」竣工

1942年
三井船舶設立



1965年
日本初の自動車専用船「追浜丸」就航